

### 第3回優秀女子学生賞 副賞のご紹介

2014年度に『日本木材学会優秀女子学生賞』が創設されました。この賞は木材学とそれに関連する分野で、優れた研究業績を収め、将来を嘱望される本学会女子学生会員に毎年（原則）2名以内授与されるものです。この賞の詳細と第1回の受賞者についてはウッディエンス 035 をご覧ください。また、第1回の副賞につきましては、ウッディエンス 036 を、同様に、第2回の受賞者および副賞については、ウッディエンス 039 をご覧ください。

036 [http://www.jwrs.org/woodience/mm036/13\\_Fukusyou.pdf](http://www.jwrs.org/woodience/mm036/13_Fukusyou.pdf)

039 <http://www.jwrs.org/woodience/mm039/12Fukusho039.pdf>

第67回日本木材学会福岡大会の会期中の3/18に、学会賞授与式が開催され、優秀女子学生賞は東京大学大学院農学生命科学研究科の立岡美夏子氏に授与されました。そこで、本年度の優秀女子学生賞の副賞について、簡単にご紹介させていただきます。

本年度は 副賞作成のための素材である”黒柿”を（株）梶本銘木店様と（一社）木と住まい研究協会様からご提供いただきました。制作に関しましては、本年度も昭和女子大学環境デザイン学科の桃園靖子教授にお世話になりました。今年も桃園先生のご指導の下、研究室の学生・院生・助手の皆さんで力を合わせて次の写真の作品を製作いただきました。（株）梶本銘木店様と（一社）木と住まい研究協会様 そして桃園先生と研究室の皆さま ありがとうございます。

今年の作品のタイトルは 「百年の時と生きた木と」です。以下は桃園研究室よりいただいたコンセプトです。

#### <コンセプト>

柿の木が数百年の樹齢を重ね古木になると、希に心材に墨で書いた様に黒い紋様が入るものがあります。この様になった柿の木のことを黒柿（くろがき）と言います。千三百年の昔より、黒柿は貴重な宝物として大切にされてきました。

黒柿の模様や色はどれひとつとして同じものではなく、見るもののところを強く引きつける不思議な魅力を持っています。

魅惑の銘木と呼ばれるこの黒柿は切ってみなければ分からないことから材料としては作り手泣かせの木材です。だからこそ一期一会の出会いはより稀少で、魅惑の木といわれる所以なのかもしれません。

ひとつだけのかたちとして 受賞を祝し 心をこめて創りました。



とのことです。黒柿は硬くて脆いため、作成には大変な苦勞があったようです。また、この黒い模様部分も、どのような模様が現れてくるのか切ってみないとわからないため、”形”と“模様”のデザインは、文字通りの“一期一会”となりました。出来上りを拝見させていただきましたが、“渋い”魅力満載の どこにも存在しないトロフィーになったのではないかと思います。受賞者も 自分のためだけに制作された”オンリーワン”の副賞を とても喜んでくれました。

デザイン系の若手の皆様から研究職を目指す若手へ、気持ちを込めて作成いただくこの企画は、多くの皆様のご協力でなりたっ

ています。本当にありがとうございました。そして、本年度受賞された立岡氏と今までの受賞者皆様の今後の活躍と、この賞の発展をお祈りしたいと思います。

中山 榮子

(男女共同参画担当参事、学会賞担当、ダイバーシティ委員会、  
昭和女子大学)